

令和3年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

### ①豊かな心をはぐくむ教育の推進

<h4>1 一人一人の児童生徒の尊重</h4> <p>学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。</p>	<h4>2 友達への思いやり</h4> <p>子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。</p>	<h4>3 道徳・心の教育の充実</h4> <p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に向けていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)</p>
--	---	--

【学校から】「1.一人一人の児童の尊重」では、児童の肯定回答が微増し、教職員の肯定回答が微減し、保護者は昨年同様であった。「2.友達への思いやり」では、児童の肯定回答が微増し、教職員の肯定回答が微減し、保護者は微減であった。「3.道徳・心の教育の充実」では、保護者は微増し、教職員は9%減少した。「①豊かな心を育む教育」は、児童にとって推進につながったと考える。教職員は、更なる充実を求める意識の向上を感じることができる。コロナの影響で、参観機会等が減少したため、伝わりにくかったことも考えられる。今後も、保護者と連携した取り組みを進めていきたい。

### ②確かな学力を育む教育の推進

<h4>4 意欲的な学習態度</h4> <p>子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。</p>	<h4>5 授業力向上</h4> <p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p>	<h4>6 ICT活用</h4> <p>子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。</p>
---	--	--

【学校から】「4.意欲的な学習態度」では、児童の肯定回答が微増し、教職員の肯定回答が10%増加し、保護者は微減した。「5.授業力向上」では、児童の肯定回答は昨年同様で、教職員の肯定回答は100%で、保護者は微増した。「6. ICT活用」では、児童は昨年同様で、教職員は100%に増加し、保護者は、昨年同様であった。「②確かな学力を育む教育」は、児童と教職員にとって推進につながったと考える。保護者の思い受け止めた取り組みを進めていきたい。

### ③健やかな体を育む教育の推進

<h4>7 健康づくり</h4> <p>子どもは、好き嫌いや食事をして適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。</p>	<h4>8 児童生徒理解</h4> <p>先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとしていると思いますか。</p>	<h4>9 いじめや問題への対応</h4> <p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。</p>
---	--	--

【学校から】児童と保護者の肯定回答は昨年同様であったが、教職員は12%減少した。教職員は、コロナの影響で、学校生活での運動機会の減少を感じ取っていると思われる。

【学校から】児童の肯定回答は微増し、教職員の肯定回答は、微減し、保護者の肯定回答は、微増であった。「9.いじめや問題への対応」では、児童の肯定回答は微減し、教職員の肯定回答は、7%増加した。「③いじめ不登校などに対する相談支援体制」は、概ね充実していると考えられる。概ね児童理解は進められていると考えられるが、児童の肯定感をより高める取組を進めていきたい。

### ④特別支援教育の推進

<h4>10 学校の支援体制</h4> <p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p>	<h4>11 共生社会を担う人材の育成</h4> <p>「交流及び共同学習」等の実施は、相互理解の促進につながっていると思いますか。</p>
--	--

【学校から】「10.学校の支援体制」では、教職員の肯定回答が微減し、保護者の肯定回答は微増であった。新設問の「11.共生社会を担う人材の育成」では、児童の肯定回答は、91%。教職員の肯定回答は、91%。保護者は86%であった。「④特別支援教育の推進」については、児童の相互理解と教職員の研修、保護者への啓発をすすめ、特別支援教育への共通理解・相互理解を進めていきたい。

### ⑤子どもたちの身近な安全対策の充実

<h4>12 安全と事故防止</h4> <p>学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。</p>	<h4>⑥最適な学習環境の整備</h4> <h4>13 施設・設備の安全管理</h4> <p>学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。</p>
---	---

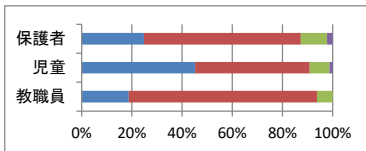
【学校から】児童の肯定回答は昨年同様で、教職員の肯定回答は、微減し、保護者の肯定回答は、昨年同様であった。概ね事故防止などの安全教育は進められていると考えられる。

【学校から】児童の肯定回答は微減し、教職員の肯定回答は微増し、保護者の肯定回答は微減した。老朽化の進む施設等に対する教職員が常に整備・管理を進めていることがうかがえる。

### ③家庭・地域社会との連携強化

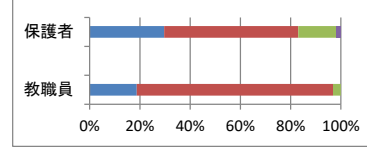
#### 14 教育方針・目標の理解

学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。



#### 15 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

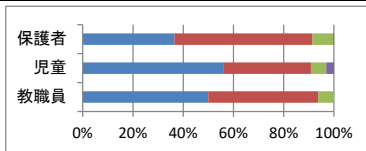


【学校から】「14. 教育方針・目標の理解」では、児童の肯定回答は昨年同様で、教職員の肯定回答が微増し、保護者は6%増加した。「15. 家庭や地域との連携協力」では、教職員の肯定回答が微減し、保護者は6%増加であった。「③家庭・地域社会との連携強化」は、コロナの影響で、連携できる機会は減ったものの学校からの発信を意識したことで、保護者にとって連携がすすんだと考える。

### ⑧本校の教育

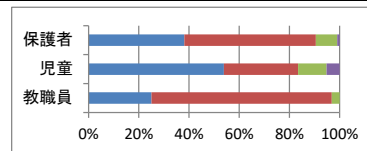
#### 16 挨拶への取組

先生方は、あいさつの指導に力を入れていると思いますか。



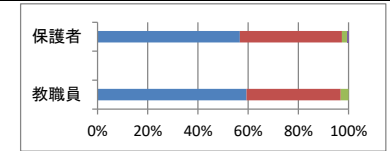
#### 17 「いいね」があふれる取組

先生方は、互いを認め合う「いいね」があふれるような取組に力を入れていると思いますか。



#### 18 情報提供

学校は、安心メールや学校便り・学級便りなどで情報提供に努めていますか。



【学校から】「16. 挨拶への取組」では、児童と教職員の肯定回答が昨年同様で、保護者は微増した。「17. いいねがあふれる取組」では、児童の肯定回答が微増し、教職員の肯定回答が微減し、保護者は微増であった。「18. 情報提供」では、保護者は微増し、教職員は微減した。「⑧本校の教育」は、児童と保護者には昨年同様に伝わっているものと考えられる。教職員は、更なる充実を求める意識の向上を感じることができる。

### 来年度の具体的な取り組みについて

- 豊かな心を育み好ましい人間関係を築く力をつけるために、道徳の授業の活性化・児童が活躍する集会活動等の特別活動・児童が主体的に進める学校行事等の充実を図り、「いいね」と認め褒める場面を大切にすることで、自己肯定感や他者理解を進め、支持的風土を持つ集団づくりに取り組む。
- 確かな学力を育むために、熊本市学力検査の結果を分析するとともに、少人数指導や教科担任制・交代授業等の推進を図り、教師の専門性や授業力の向上を図る。また、ICT活用の研究を進め、児童が主体的に学ぶ支援ツールとしての効果的な活用に取り組む。既習事項の定着化のためのドリルパークを活用した取組及び家庭学習の習慣化をすすめ、基礎学力の定着を図っていく。
- 健やかな体を育むために、体育の授業で体づくりの運動を取り入れるなどの工夫をし、外遊びの励行を進め、体を動かす機会を増やしていく。また、健康な生活習慣の確立を図るために、日常の感染症対策を定着させ、健康タイムの継続と、食育の推進等を図り、家庭とも連携し、健やかな体を育む教育を進めていく。
- 児童一人一人を大切にすることを進めるために、心のアンケートをはじめ教育相談期間を設定する。また、SCや専門機関との連携を図るなどして、児童が安心して相談できる環境を充実させる。さらに、自分らしさを発揮できるように、係活動など、一人一人の個性が活かせる学級づくりを進める。
- 特別支援教育の推進のために、合理的な配慮に基づいて教職員が連携し、個に応じた支援を徹底していくとともに、教職員の研修を進めて、支援の充実を図る。また、人権教育部を中心にして「いいね」の取り組みを推進する。
- 学校の教育活動を学校だよりや学級通信等を発行したり、保護者と密に情報交換したりして、保護者と協働する教育活動を進める。

### 学校関係者評価

- 授業参観をしてみて、今年度も学校全体が落ち着いていて、とてもよかった。学習態度も良く、ほとんどがきちんと学んでいると思った。
- 掲示してある子ども達の作品（書道・図工）などから、子ども達の真面目さや真剣さが伝わってきた。授業をきちんと受けていると感じた。
- 児童の挨拶の状況も年々良くなっている。地域での挨拶への取り組みがコロナの影響でできていないのが残念である。
- 学校評価の結果は、昨年同様が多かった。保護者の学校教育への関心度はどのようなものだろうか。年々、保護者の関心が下がってきているように思える。保護者の学校に対する信頼心も大きくなっているのではないだろうか。
- 保護者の共働きも増え、地域とのかかわりも減り、親同士のコミュニティーを大切にしていけることが必要だと感じる。
- 一人一台タブレット整備で、授業の形が変わってきているのではないだろうか。今の教育が見られた。ICT活用の効果はあると思う。不登校への対応にも活用できていると聞いて感心した。